

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

# TAKATSUKI

Days

令和5年

1

No.1418

市制施行80周年  
記念インタビュー

村上信五さん

特集

みんなの  
将棋。

連載

キラリスポーツ

「柔道」

たかつき歴史アラカルト

「円筒埴輪を見る」

週末どこ行く？ 何食べる？

おでかけDAYS

「城下町エリア」

\\ CLOSE UP /

たかつき発展の軌跡

※発行時の表紙の写真は、ウェブ上での掲載期間について、令和5年3月24日までとして編集したもので、現在、ご覧いただくことはできません。この表紙は別の写真を表紙用に差し替えて再編集したものです。

Murakami Shingo

Murakami Shingo

# 年齢を重ねて より誇らしく 思えるように

高槻市出身で関ジャニ∞の

メンバーとして活躍する村上信五さん。

20歳ごろまで過ごした日々の思い出や

高槻市の魅力を語っていただきました。

## 村上信五

むらかみ・しんご／1982年1月26日生まれ、高槻市出身。2004年に関ジャニ∞のメンバーとしてCDデビュー。バラエティ番組「月曜から夜ふかし」や「午前0時の森」(日本テレビ系)、「関ジャニ∞の あとはご自由に」(フジテレビ)など数々の番組に出演している。

※発行時、ここに掲載していた写真は、ウェブ上での掲載期間を令和5年3月24日までとしていたものであるため、現在、ご覧いただくことはできません。ご了承ください。

## 青春の思い出が たくさん詰まった場所

——まずは幼少期のお話から。村上さんは高槻市で、どのような日々を過ごしていたんですか？

「いや、特別なことは何もなくて。ごくごく普通ですよ。僕の家は駅からだいたい北に行ったところにあったもんで。言うても近所のスーパーマーケットや駄菓子屋さんが閉まったら、もう真っ暗でした。摂津峡に自転車で川遊びに行ったり、お金を使わずいかに楽しく遊ぶかっていう、男の子の普通の幼少期です」

——川で遊ぶというのは。

「自分たちの秘密スポットみたいなんを作って、そこで飛び込みをしたりとか。飛び込んでも大丈夫なところを探して遊ぶのが主流やったかな。結構、上流のほうまで行ってましたね。ホンマは行ったらあかんかったのかもしれないけど(笑)。流れの急なところで逆流していくとか、誰が一番早く、あの石のところまで上がるか、わんぱくしてました。浅瀬で手打ち野球もやりましたね。上流の子がピッチャーでカラーボール投げてっいう。でもそんなに人数集まらんから、1人が投げて1人が打って、あとの2人が適当に守って、と三角野球みたいなのを自分らでルール決めてやりました(詳細にルール語る)」

——よく覚えていますね！ 高槻市で過ごしていたのはいつぐらいまでですか？

「中3のときにジャニーズに入り、ちょこちょこ東京にも行ってきましたけど、成人するまでは高槻市にいましたよ。京都と新大阪の間で新快速が停まるのが高槻だけやから、東京行くときは新大阪から、帰りは京都で降りて新快速で高槻に帰ったり、いろいろ変えてました」

——村上さんにとって、高槻市ってどういう場所ですか？ 自然も娯楽も、何でもそろっていたとか。

「いや、何でもなかったかなあ(笑)。僕がいた頃は。はじめてマクドナルドができたのが小学校4、5年くらいのときで、テンションが上がったのは覚えています。お父さんと弟と街に出たときに、ポテトが食べてみたくて、お父さんにお金もらって買いに行ったんです。えらい行列に並んでね。そのとき、ポテトのS

が140円ってあったから、140円もらってレジで払おうとしたら、消費税がプラスされて144円やって言われて。買われへんかったんです。店員のお姉さんから、“ごめんね、ぼく”って、弟からは“兄ちゃん、なんで食べられへんの？”って言われたの、鮮明に覚えていますよ。“もういっぺん買ってくる！”って行ったら列がもっと伸びてて、お父さんから“あかん！ 帰るで”って。はじめてのファーストフード店のポテトは食べられへんかった。他にもTSUTAYAができて仲間内で盛り上がりたり、いろいろありました(笑)」

——駅のほうに“下(くだ)って”行っていたんですね。

「そうです。家からどこに行くにも、下らないといけなかったから、帰りの登りの道での自転車の足の重さたるや！ きっつい、きっつい(笑)。まあ、坂の多さも高槻市の特徴でしょうか。えぐい傾斜の坂とかもありますから。そこを自転車で1回も足をつかずに登れるようになったときとか、自分がむっちゃ強くなった気がしました。友だちみんなで競争したこともあります。今の高槻市は僕が住んでいた頃より都会になっていると思

※発行時、ここに掲載していた写真は、ウェブ上での掲載期間を令和5年3月24日までとしていたものであるため、現在、ご覧いただくことはできません。ご了承ください。

Murakami Shingo

※発行時、ここに掲載していた写真は、ウェブ上での掲載期間を令和5年3月24日までとしていたものであるため、現在、ご覧いただくことはできません。ご了承ください。

ますけどね。後輩で関西ジャニーズJr.のAmBitiousの真弓孟之が同じ高槻市出身なんです。最新の情報は真弓くんから聞いているんですが、トポスの話をしても、もう知らなかったな(笑)」

——**当たり前に触れていたけれど、実は他では当たり前ではなかったことというの？**

「古墳とか、中学の真ん前やったからね。当時はそれが普通だと思っていたから。学校の前に古墳はあるもんやと。そういうのも自然に学べたし、いいところで過ごせたと思います」

——**中学時代の思い出話もぜひ。**

「芝生の体育館ってまだあります？ あそこは中学時代、バスケットの大会でよく行ってたんです。中1のときなんか、先輩の分のボールも、3つぐらい担いでね。当時は、五領中学校の女子バスケット部が強かったんですよ。その女子バスケット部の子たちがめちゃくちゃ可愛く見えたから、“ほんならみんなまで自転車で五領中まで行こう！”って。めっちゃ青春やったわ〜。僕はヤナ中(柳川中学校)ってところとライバルやったんやけど、中3の最後の試合で、僕がブザービーターを決めたんです。そのヤナ中の2人と僕ともう1人のチームメイトが仲が良くて、僕ら、他の中学の女子バスから、ちょっとこうカッコイって羨望の眼差しで見られていて。僕らの試合、女子も見に来てくれましたからね。ブザービーターで盛り上がり、次の日から僕は芝中(芝谷中学校)のスターになり、その数カ月後にジャニーズに入りました。あのときが僕の人生のピークやったなあ(笑)」

——**いい青春ですね！**

「まあ、それで調子に乗ってたんやろうなあ。そのまま五領中に行っても相手にしてくれるやろと思って、自転車で乗り付けたら、向こうの先生から“不審者が学校のまわりをウロウロして

いるから、下校時注意してください”なんてアナウンスされてしまって。結局、その女子バスケット部の子たちとは会えないままでした。幼少期は活発に遊べましたし、思春期の好奇心も遺憾なく発揮させてもらいましたよ。あっ！あと美人湯 祥風苑もよく行きました。近所のおばちゃんが勤めていたこともあって、マル(丸山隆平)ともよう一緒に行ってたなあ。マルはうちの実家によく泊まっていたから、夜はこの温泉行ってたんです」

——**高槻まつりにも行っていましたか？**

「子どもの頃は。中に写真が入れられるロケットペンダントをお母さんに買ってました。今はロケットなんて言わへんかな(笑)。あとはなげなしのお金で、焼きそば買うか、綿菓子買うか、スーパーボールすくいをするかっていう。買ったものを友だちと半分こしたり、“一口ずつな”“お前の一口、めちゃうちゃデカイやんけ！”って、しょーもないケンカになったり(笑)。いや、話してるといろいろ出てくるなあ」

## 後輩を携えて いつか凱旋公演ができたら

——**せっかくですから、TAKATSU-KING(タカツキング)誕生秘話も改めて、お聞かせいただけると。**

「あれ言うたんは、マツコ(・デラックス)やからね。僕の意志なんか1ミリもなくて、ひとり歩きしていった感じなので、逆に高槻市に迷惑かかっていないかなあと心配していたんです。僕が高槻市出身というのをマツコが知ってくれたのと、別でKINGというキャラクターでラップをやっている。関ジャニ∞10周年のときやったかな。それで、その2つをかけたらええやんっていう流れで、ほなTAKATSU-KINGでって。そうしたら、久保田利伸さんがおもしろがって曲を書いてくれるという、もうわけのわからん感じで僕の手から離れていった(笑)。それを見ていた後輩の真弓くんが、「TAKATSU-KINGがすごい好き」って言うてくれてね。まわりのみなさんの尽力のおかげで認知されて、少しでも高槻市に恩返しができるのであ

れば、それはそれで、よかったのかなあと思っています」

——**高槻市のマスコットキャラクター“はにたん”や“うどんギョーザ”といった地元フードはいかがですか？**

「以前、はにたんは市の方からグッズなど、いろいろ送っていただきました(笑)。うどんギョーザは、かなり新しいですよ。子どもの頃から家で食べていて、今でこそハイカラにアレンジされていますが、うちではうどんとニラ刻んで、小麦粉溶いたやつにポン酢つけて食べていました。高槻で1、2を争うくらい、具が少ないんちゃうかな(笑)。そういうのにもスポットが当たるようになったんや!？ って、驚きました(笑)」

——**将棋会館など、高槻市の進展は耳に入っていますか？**

「聞いてます。高槻情報はちらほら入ってきてますから。自分がよく行ってたスポットはまだあるのかどうかっていうのは後輩の真弓くんから、行政的な変化は大人から聞いてます。えらい立派な劇場もできると。完成したらいっぺん見に行きたいですよ。成人式のときは、市民会館に行ったんです。ちょうどジャニーズに入って数年経っていて、まあローカルな活動しかしていないけど、もしなんか迷惑になったらいけないなあと思って、小中学の友だちとパパッとね」

——**村上さんが思う、高槻市の魅力とは!?**

「今は何でもありますし、まず立地がいいですよ。京都にも近いから、車の免許取ってからは、京都にもめっちゃうやりました。大阪方面、兵庫にも出やすいし、北に行けば、しいたけの産地やボンボン山っていう、ハイキングコースなんかもある。南は淀川とかがあって、雅楽師の東儀秀樹さんにお聞きしたんですが、高槻の葦がめちゃくちゃええねんて。日本で一番いい葦があるんだよって教えていただいて。将棋とかも含めて、日本の文化に関わるものがあって、年齢を重ねてから、より誇らしく思えるようになりました」

——**最後に2023年の抱負など、市民に向**

**けたメッセージをお願いします。**

「ええっ!? そんなん、まるで行政の人やんか! まあ、出馬するとなったら大阪10区ですけど。って、このネタ、大人にしかウケへんし、コンサートで一度ダダ滑りしてからはやっていません(笑)。冗談はさておき、新劇場では、いつか凱旋公演みたいなのをさせてもらえたら、うれしいです。後輩を携えて、自分の街でそういう公演ができたらええなと。まだ僕の賞味期限があるうちに(笑)。高槻市に興味を持ってくれた人には、摂津峡など自然の多い場所はおすすめですよ。新しい施設は僕もよく知らんから、いったん、ちゃんと足を運ばないと。いつかじっくり回って、思い出に浸りたいです」

※発行時、ここに掲載していた写真は、ウェブ上での掲載期間を令和5年3月24日までとしていたものであるため、現在、ご覧いただくことはできません。ご了承ください。



どんどん将棋が面白くなっていく!

# みんなの将棋。

Let's Enjoy!

将棋の「西の聖地」関西将棋会館の移転を控え、「将棋のまち」として盛り上がりを見せる高槻市。今号の特集は、将棋をよく知り指せる人はもちろん、あまりルールがわからない人でも楽しむことができる将棋のあれこれを紹介。小さな子どもからベテランまで…みんなの将棋です。

将棋を指せなくても楽しめます

## 観る将・読む将・描く将のススメ。

ライブも楽しめる

### TV番組

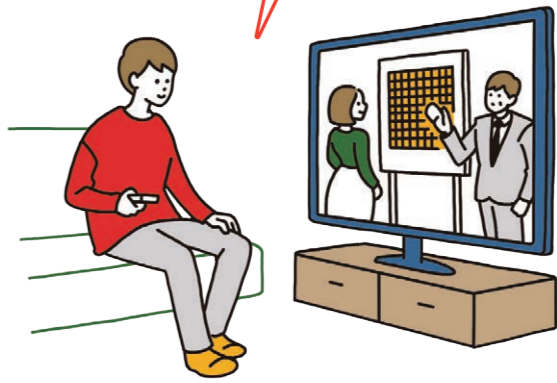
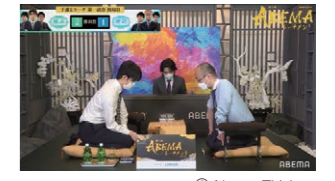
#### 『将棋フォーカス』

サバナ・高橋茂雄さんが司会をつとめるNHK Eテレの将棋エンターテインメント番組。“初心者も楽しめる将棋番組”を謳い、「今日の特集」、「NO将棋 NO LIFE」などで構成。



#### 『ABEMA 将棋チャンネル』

インターネットテレビ・ABEMAの将棋専門チャンネル。24時間無料で、タイトル戦の生中継などを配信してくれるので、“観る将”にとってはいつでも楽しめる番組。



### 将棋の世界を知る 小説・漫画

#### 『ぼくらに嘘がひとつだけ』 綾崎隼・著/文藝春秋刊

落ちこぼれ女流棋士の息子と、代々棋士の家系に育つエリート。棋士を目指す2人の天才少年が、出生時に取り違えられていた可能性に気づき…。ミステリーの要素も含み、女流棋士界のことも興味深く知ることができる小説。



#### 『覇王の譜』 橋本長道・著/新潮社刊

元奨励会会員で将棋を深く知る著者だからこそ書けた将棋エンターテインメント。一人の青年棋士が、挫折を味わい、人間関係にも悩みながら成長していく様がリアルに描かれています。福島区にある現関西将棋会館の描写も興味深い。



#### 『将棋の渡辺くん』 伊奈めぐみ・著/講談社刊

永世竜王・永世棋王の資格を持つ名棋士・渡辺明氏の妻による漫画。タイトル戦など勝負の世界に挑む氏と家族の日々を、ぬいぐるみ好きなどかわいらしい一面も紹介しながらユーモラスに描きます。棋士への親近感が増すこと間違いなし。



棋士の似顔絵などを描く「描く将」を楽しむ人も増えています。「棋士の方は、みなさん表情が個性的。対局中の真剣な表情もいいですし、ふだんの笑顔を想像しながら描くのも楽しい」と高槻在住の加藤瞳さん。



### 将棋イラストの楽しみ方

# 新春

## 高槻将棋カルタ。

さまざまな楽しみ方で将棋にふれている市民のみなさんに、将棋の魅力を聞いてみました。

**こ** 駒をもらって  
目指せ  
プロ棋士!



**き** 90歳になるけれど  
いつまでも  
将棋を楽しみたい。



**り** 旅行中も、  
酒飲みながらも  
将棋指し。



**お** 親子でも、  
指すときには  
真剣勝負。



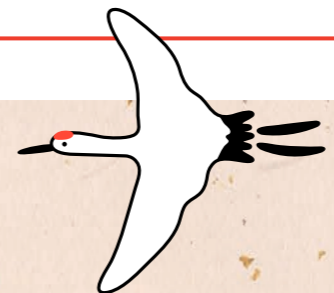
**か** 会館が高槻に  
できるのが  
待ち遠しい。



**ま** 負けることが  
将棋に強くなる  
第一歩。



**い** いろいろな場面に  
出会えるのが  
将棋の醍醐味。



**こ** 市内の小学校に通う旬汰くんと遥ちゃん。  
旬汰くんは学童保育で、遥ちゃんはおばあちゃんちで将棋にふれ、学校で駒をもらいさらに興味が。「家族みんなで将棋をやれるのが楽しい」と遥ちゃん。「駒をもらったので、もっと将棋をやりたい」と旬汰くん。

**き** 氷室町にお住いの天野義忠さんは、週2回、クロスバル高槻で将棋を楽しみます。「一番面白いのは、相手がどう考えているのかを読むこと。自分の都合だけじゃダメ。みんなと将棋を指したりおしゃべりするの、もう生きがいになってますね。」

**り** 天川新町在住の本間好喜さんは、会社勤めをしていたとき、将棋好きの先輩と毎日のように将棋を指していたそう。「旅行に行っても、酒を飲みながらも将棋ばかりしていました。今年は高槻の将棋人口が増えたらいいなあと思っています。」

**お** 大手町在住、小学1年生の村上悠太くと亜由美さん親子。「子ども達ができるなら私もやってみよう」と漫画でルールを覚えた亜由美さん。でも悠太くんは、お母さん相手じゃ物足りなくなり、最近将棋教室に通い始めたそうです。

**か** 道鶴町にお住いの田澤正一さんは、定年後に将棋を始めました。「負けても苦じゃないよ。相手を喜ばせて人のためになるからね。高槻市が一生懸命将棋の普及に取り組んでいるのがいい。関西将棋会館ができるので長生きをしないとね。」

**ま** 小学4年生の帆夏ちゃんは、保育所に通っていたときに、友達と将棋を楽しむようになったそうです。「負けるのももちろん悔しいけど、そこからがんばって強くなって勝つとうれしいです」と対局の面白さに夢中です。

**い** 高槻市立第六中学校将棋部の元部長・大野力駆くん(左)と現副部長・磯和聖唯摩くん(右)。共に小学生から将棋を始め、「対局することに異なる場面向き合えるのが楽しい」と大野くん。「将棋はやるのがいろいろあって奥深いです」と磯和くん。

### 棋士に指導を受けて 楽しむ中学生



高槻市立第六中学校には将棋部があり、週に3~4日放課後に部活動をしています。月に1回は、棋士・東和男八段の指導を受けて、「生徒が車座になって、先生に同時対局していただいて、とても勉強になります」と部長の川村純平くん。放課後の教室に心地いい駒の音が響いていました。

### 市内の小学生に 将棋駒をプレゼント!



高槻市では令和4年11月から順次、市内の小学1年生全員に将棋の駒を配布しています。これは市内面積の43.9%を占める森林の間伐材でつくられたもの。この駒を使って、森林の大切さや日本古来の文化への理解を深めるための棋士による出前授業が各小学校で行われていて、高槻市出身の棋士・古森悠太五段などが講師をつとめています。



## 摂津峡 花の里温泉 山水館を訪れました。

前回は藤井聡太さんの王将位奪取で盛り上がった王将戦。次回は摂津峡の「山水館」で開催されます。



摂津峡を望む露天風呂。渡辺明名人も「温泉も良く、好きな対局場です」とツイート。



藤井聡太王将に羽生善治九段が挑戦することになり、俄然注目の令和5年の王将戦ですが、山水館での第2局は、1月21日(土)・22日(日)に行われます。豊かな自然に囲まれた静かなロケーションは棋士からも人気が高く、館内には、棋士たちの書や写真を飾るコーナーも設置。5回目の王将戦を迎え入れる旅館は、ファンが訪れたい将棋の聖地の一つになりつつあります。

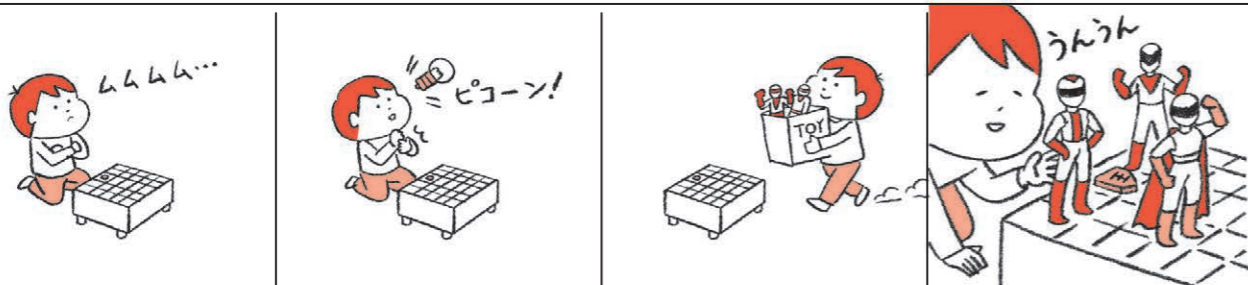
※対局日に対局場所である山水館への立ち入りはできません。



王将戦の対局が行われる「単月の間」。普段部屋貸しはせず対局時の状態を維持しています。宿泊や食事利用客は見学も可。(状況により案内できない場合もあります)



### たかつきぐらし vol.6 鉄壁の守り



渡辺明王将(当時・左)に挑戦をし、第2局も勝利した藤井聡太竜王(右)

## 令和4年1月に開催の第71期王将戦の様



山水館へ至る道にはのほりも立てられ、歓迎ムードに。

生涯学習センターでは、棋士による解説でライブ観戦をしました。



小学生を対象にした「高槻こども王将戦」も開催。

## 最新情報！ 高槻に移転する関西将棋会館



令和6年にJR高槻駅西口前に移転予定の関西将棋会館の設計プランが発表されました。図のように、緑が多く自然光が入る会館になりそう。将棋のまち高槻の新たなランドマークに。

- ① 西日本の将棋の聖地を体現した外観デザイン。
- ② 対局室から眺められる「内なる庭」を設置予定。
- ③ 対局ができる将棋道場。
- ④ 純和風の対局室。

写真提供：(公社)日本将棋連盟 ※パースはイメージです。

